

| | | | |
|---------------|------------------------|---------|-------|
| 会員数 | 40,595 | (前月比) - | 17 |
| 郵送 | 8,936 | (前月比) + | 13 |
| 手配り | 29,203 | (前月比) + | 1,006 |
| 協同基金到達額 | 2,502,739,000円(2/28現在) | | |
| | [前月比 16,810減] | | |
| 協同基金出資者数 | 21,846名(2/28現在) | | |
| いのちを守る助け合い募金額 | 823円(2/1~28) | | |



発行
健康友の会 みみはら
民医連 本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860 [1部30円]

3年ぶりの新春講演会に150人を超える参加

維新政治は大阪に何をもちたか...

矢野宏さん(新聞うずみ火代表・フリージャーナリスト)を講師に迎えて

堺社会保障推進協議会は2月18日、「新春講演会」を3年ぶりに開催しました。今回は、メディアがなかなか取り上げない維新政治に鋭いメスを入れていく矢野宏さんに、「維新政治は大阪に何をもちたか...」をテーマに講演していただきました。

今年の4月に大阪府知事選挙、統一地方選挙、6月には堺市長選挙が行われます。大阪では2008年2月に橋下徹氏が大阪府知事に、2010年4月に大阪維新の会を結成。2011年11月の大阪ダブル選(大阪府知



2023年2月17日
大阪 8290人
東京 7877人
計 16167人



今田会長挨拶

カジノでは「税金を一切使わない」と断言したにもかかわらず、多額の税金を使うことに。「大阪にカジノは要らない」「命とくらしを守る府政を」と、私たち大阪の未来がかかっている

維新が進めてきた「身を切る改革」「大阪都構想計画」「教育改革」「医療・保健所のカット」、そして「コロナ対策」。これらは全てウソで固められ、実績をウソで誇張することで「改革者」としてふるまい、特に在阪メディアでは必要以上の露出度、生出演、毎日のニュースに競ってコメントを出し、「やってる感」を効果的に発信してきたこと。

事、大阪市長)で橋下市長、松井知事が誕生し、実質ここから維新政治の大阪支配がはじまりました。



矢野宏さん

選挙に絶対に勝たないといけない。この間の維新の得票数はおおよそ同数であることから、勝つためには、「投票率を上げる」として政策的な対決点を鮮明に。特に大阪府知事選挙、統一地方選挙は「カジノ賛成か反対」を争点に、「維新政治に打ち勝ちましょう!」と。

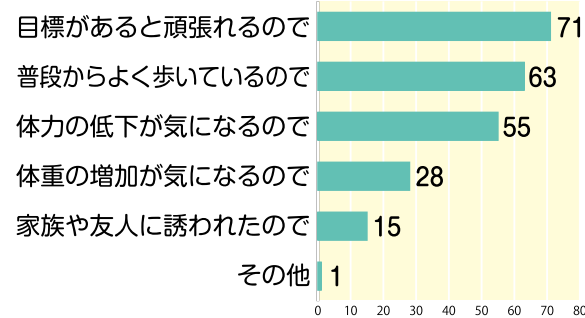
当初の予定時間を上回る矢野宏さんの熱弁に、「ウンだらけの維新政治の中身がよくわかった」「大阪の未来のために、あきらめないでやれることを頑張ろうと思った」などの感想が寄せられました。



受付の様子

ウォーキングチャレンジ

参加の動機 (複数回答あり)



1日8000歩はなかなかきつかった!?

(30代女性)「楽しく続けることが出来ませんでした。記録をつけるので励みになりました(50代女性)」「いろいろなコースを探して歩くことができ楽しかったです(60代女性)」「正月休みが尾をひいた。来年はリベンジした」

未達成の方が多かったのは、目標設定が厳しかったのか? 次回の課題です。報告書を提出していただいた方には参加賞をお渡ししますので友の会にお問い合わせください。(同仁会健康づくり委員会 事務局 北出祥夫)

同仁会健康づくり委員会では、年末年始の運動不足を解消することを目的に「第1回ウォーキングチャレンジ」を開催しました。内容は、12月27日から1月15日までの20日間で16万歩を歩こうという企画です。結果は、145人の方がチャレンジしました。達成者は、男性が50%、女性が43.8%

参加者の年代では70歳代が45.5%で最も多く、性別では男性が27.5%、女性が72.5%でした。参加の動機では、「目標がある」と頑張れるので「最も多かったです。参加者から多くの感想が寄せられました。これを機に散歩を続けたい、8000歩はなかなかきつかった」

次回もチャレンジに参加しますかの質問では、75%以上の方が参加したいと答えてくれました。次回もチャレンジに

「90歳になっても、たのしく生きる」樋口恵子著はよく売れているようだ。楽しい人生を送りたいが、それも平和であってこそ。さて、今年90歳の人は1933年(昭和8年)生まれ。大女優の岸恵子、岡田茉莉子らも▼岸恵子は且つて、戦時が背景のラジオドラマ「君の名は」が大評判。放送の夜8時には女湯が空くといわれた。彼女が12歳のとき横浜大空襲に遭った。入れと言われた防空壕は今にも崩れそう。「こんな所で死にたくない」と思い防空壕を出た。命は助かったが自宅が焼け、壕は崩れていた。「戦争は最悪」と「朝日」のインタビューで語っています▼岡田茉莉子は少女時代、日本舞踊にピアノやバレエの練習など。時は太平洋戦争、女学校の授業中にも空襲警報のサイレンと共に、機銃掃射の音が「バリバリ、バリバリ」と全身を貫く恐怖。「戦争は絶対にあつてはならない。そんな思いも込めて、自伝を書き残すことにしました」と赤旗日曜版に掲載▼故人となられた藤田スミ衆議院議員、安賀昇鳳病院院長も昭和8年生まれです▼戦前・戦中・戦後を経験したこれらの方の声を振り返り、岸田首相の進める敵基地攻撃能力の保有を葬りたい。(八田兄一)

聴診器